



# 名栗 清夏の名所・歴史探訪

国際興業バスのバス停から巡る散策コース (上名栗編)



Photo/A-Asami

はくりんじ  
柏林寺

## 奉納十六善神



↑ 現在でも年に一度、3月下旬に地元の人たちにより大般若経の転読が行なわれています。



## ひのきぶち すわじんじや 檜淵諏訪神社

社殿の中央には、諏訪神社の神体を記する祠があり、その右側に水天宮、左側に稲荷社の祠、さらに稲荷社の脇には代参の札を納める祠が置かれています。祭礼日には氏子の獅子舞保存会によって五穀豊穡、家内安全、氏子繁栄を祈願して獅子舞が奉納されています。祭礼は、お盆の8月17日に近い日曜日に行なわれています。



↑ 獅子舞は星宮神社から伝授されたと伝えられており、獅子舞、囃子の曲など星宮神社で演じられるものとほとんど同じです。



↑ 檜淵諏訪神社は人見自治会内の鎮守で、対岸上流の浜居場の集落を望むように社殿や鳥居が建てられています。



↑ 柏林寺は飯能市内の曹洞宗能仁寺の末寺で、もとは千体観音の安置堂だったところを、寛文検地のときに一反の土地が「除地」として認められて寺となったことが、江戸時代に編さんされた「新編武蔵風土記稿」に記述されています。

本尊で市指定有形文化財の木造十一面観音立像や、大般若経を守護する木造の十六善神像が祀られています。またかつて敷地内にあった般若堂に納められていた大般若経も保管されています。

バス通りから石段を少し上るだけで、山深い登山道を歩くような別荘気分が楽しめます。



## ほしのみやじんじや 星宮神社



## やさかじんじや 八坂神社

上名栗8区自治会内の鎮守として祀られています。通称は「ヤクシンガミサマ」で、天王様と同様に疫病を防いでくれる神といわれています。ヤクシンにあてる漢字は、曖昧になっており、「薬神」といわれることもあります。祭りのときに立てられる幟旗には「厄神宮」とあります。祭日は毎年10月19日です。

昔、この地に疫病が発生し、八坂神社にお参りしたところ疫病が治まったといわれています。巨大な岩を背負って建つ八坂神社は、数多い名栗のパワースポットのなかでもことに有名です。



八坂神社の神様は、たまため秋の夜には必ず煙硝の匂いが好きで、火打ち花火を打ち上げると花火が打ちあがります。夏の花火は、火打ち花火の音が好きで、煙硝の匂いが好きで、火打ち花火を打ち上げると花火が打ちあがります。



↑ 星宮神社の創建は、元暦年間(1184・1185年)のことと伝えられています。この土地の人たちの信仰を集め那栗郷の鎮守としてあがめられてまいりました。応仁元(1467)年、小野中将藤房卿、同従四位藤志卿の二人の公家が信州へ参向の折、星宮の額を見て、珍しい神社であるといわれ付近の住民に由来を尋ねられ、それをお書き留めになられていきました。翌年、雑掌をお下しになり、伏見より大己貴命の御霊神を御贈りになったと伝えられています。



↑ 9月下旬の例大祭には獅子舞が盛大に行なわれています。江戸時代から伝わっていた獅子頭は、名工 左甚五郎の作といわれていますが、明治23年の火災で消失してしまいました。



本殿の両脇に置かれている狛犬は、江戸時代の「新編武蔵風土記稿」にも「既に古物とみられる」とあり、相当古いものであることがうかがわれます。